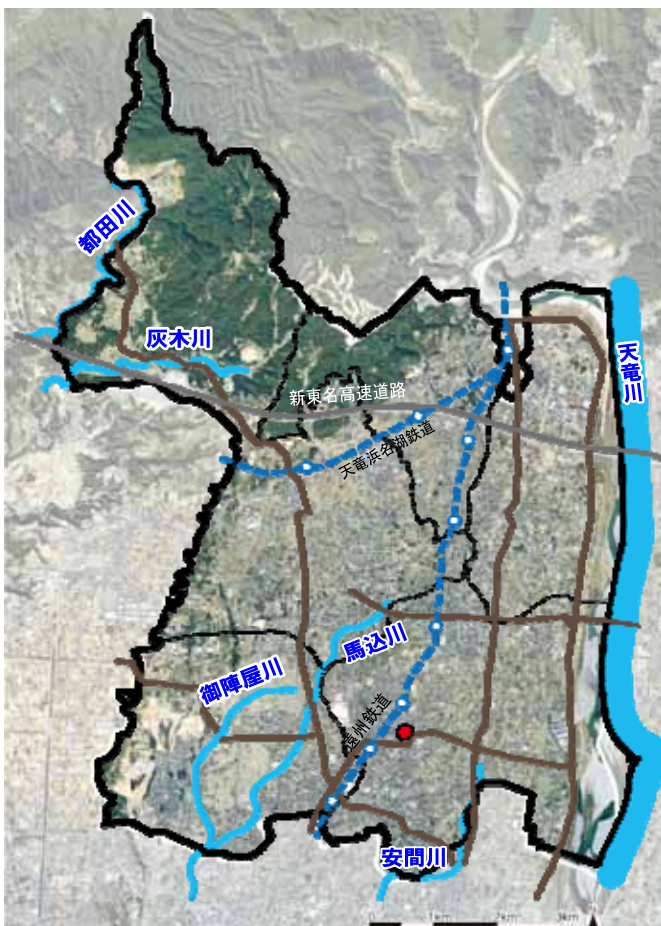


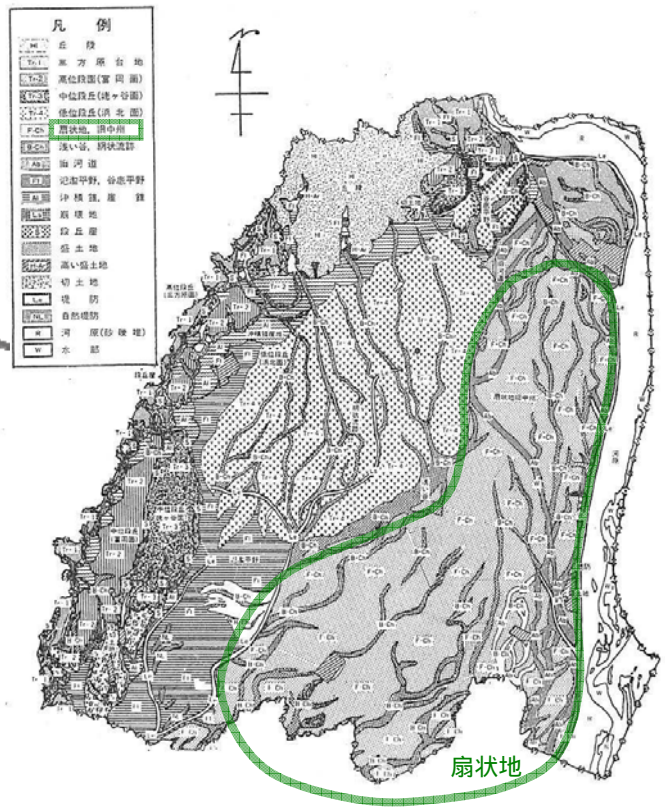
		特 徴
気象	気 温	・年間平均気温が16 前後と浜松市中心市街地周辺よりも高い気温で、県内でも温暖な地域です。
	降雨量	・年平均降水量は2,300mm で天竜区など山間地に比べれば少ない地域です。 ・晴天日が多い割に年降水量が多く、4月から8月にかけて年降水量の約半分に達します。特に、台風期(8、9月)より梅雨期(6、7月)に降水量が多い傾向にあります。
	風向・風力	・風向は、冬季は強い西風(遠州の空っ風)が、夏季は西あるいは南よりの風が卓越しています。
地 形	・区東側を流れる天竜川が形成した砂礫層からなる扇状地状の平坦地上にあり、区域の大部分が沖積平野の北西部に位置しています。	
地 質	<ul style="list-style-type: none"> ・区域北部は山地及び丘陵地となっており、山地は南アルプス赤石山地の南端にあたります。 ・区域西部に分布する三方原台地は、旧天竜川が形成した開析扇状地で河岸段丘を形成しています。 ・区域東部から南西部にかけて扇状地と氾濫平野(低湿地)からなる天竜川低地が広く分布しており、ほとんどが砂礫層で構成されています。 ・平口から内野にかけて低湿地の氾濫平野が広がり、天竜川の扇状地上の小流路の堆積物であるシルトや粘土で構成されています。 	

沖積平野：沖積世に堆積した地層で成り、地盤が軟弱で地震による液状化などが比較的発生しやすい

扇状地：一般的に支持力が大きく、構造物の基礎に適する地盤



浜北区の主な河川

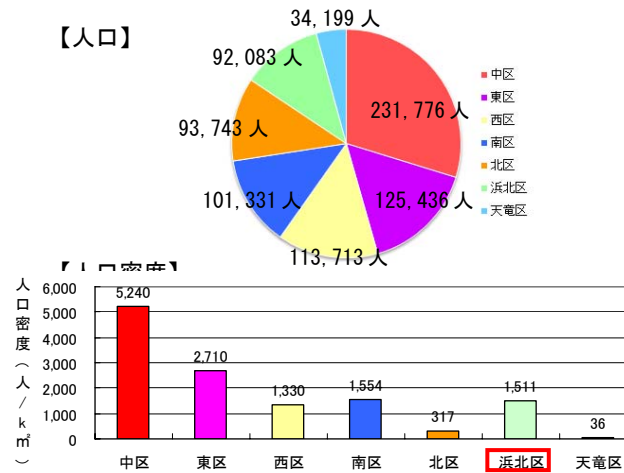


浜北区地形分類図(浜北町史)

2. 浜北区の社会環境

①人口・世帯

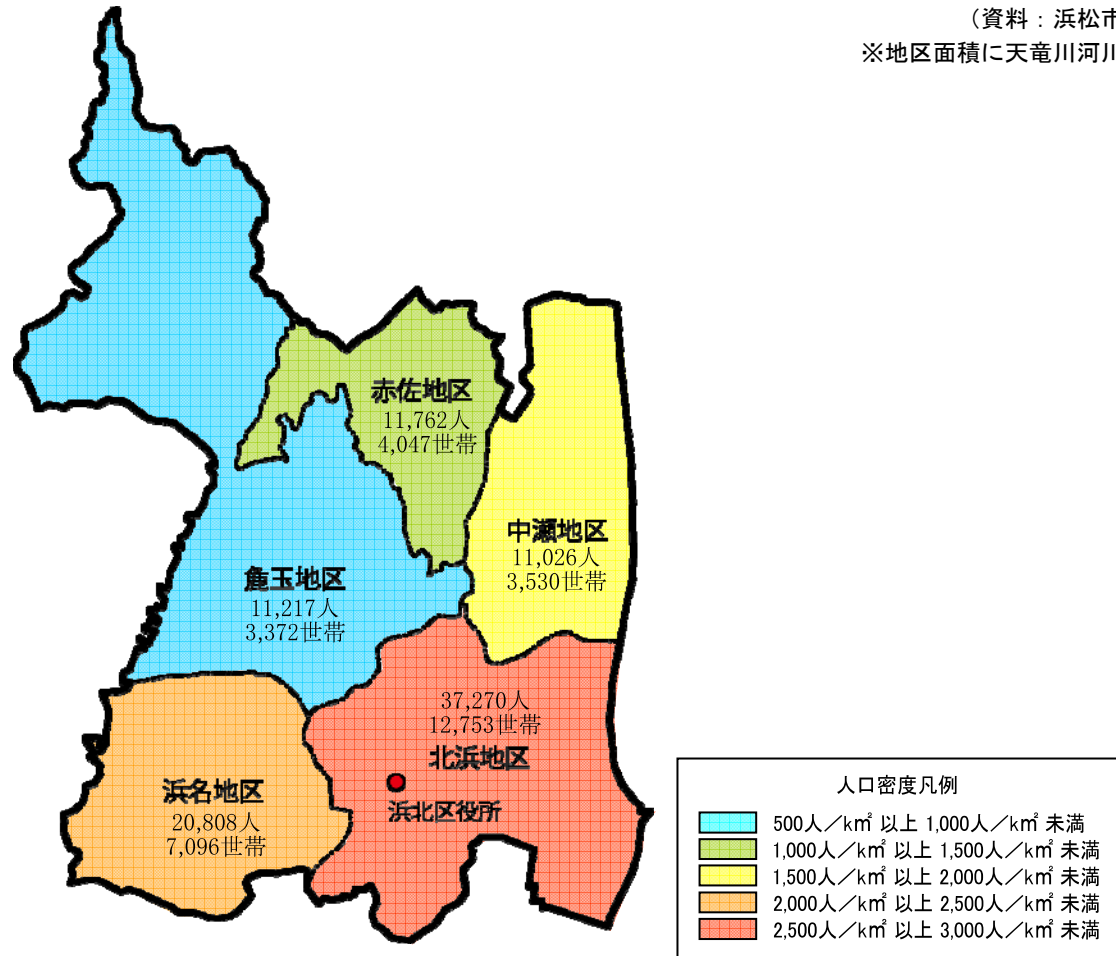
- ・浜北区は5地区に分かれ、区全体の人口は約92,000人となっています。
- ・人口分布をみると南側の「北浜地区」や「浜名地区」で多く、人口密度も同様に高くなっています。
- ・全市では4番目に人口密度が高い区です。



■地区別の人口・世帯数

	北浜地区	浜名地区	中瀬地区	赤佐地区	鹿玉地区	合計	
地区面積 (km ²)	12.93※	10.18	6.87※	9.19	21.79	60.96	
人口 (人)	男	18,506	10,301	5,454	5,877	5,544	45,682
	女	18,764	10,507	5,572	5,885	5,673	46,401
	合計	37,270	20,808	11,026	11,762	11,217	92,083
世帯数 (世帯)	12,753	7,096	3,530	4,047	3,372	30,798	
人口密度 (人/km ²)	2,883.5	2,043.3	1,604.6	1,280.0	514.7	1,510.5	

(資料：浜松市統計書)
※地区面積に天竜川河川敷を含む

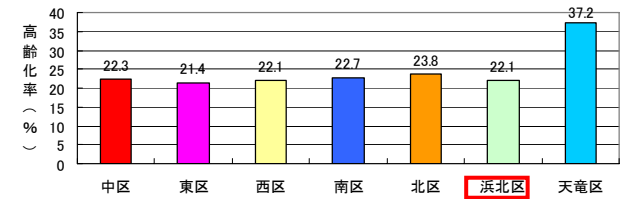


浜北区における地区別の人口・世帯数と人口密度

②高齢化率

- ・浜北区全体の高齢化率は22.1%で、これは市平均値(約24.5%)に比べ低い値です。
- ・地区で比較すると「浜名地区」が20.0%と最も低く、北側の「中瀬・赤佐・鹿玉地区」はいずれも23%以上となっています。

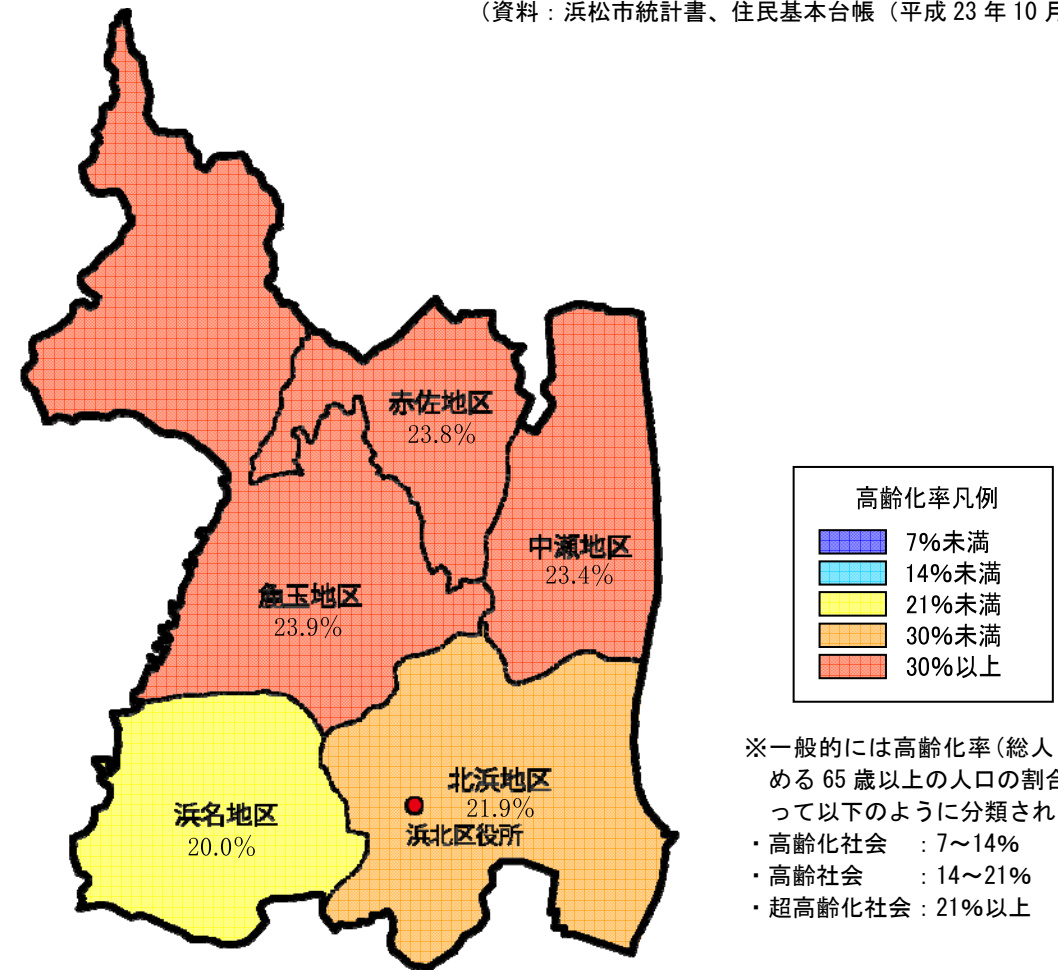
【高齢化率】



■地区別の年齢別人口と高齢化率

	北浜地区	浜名地区	中瀬地区	赤佐地区	鹿玉地区	合計	備考
年齢別人口 (人)	15歳未満	5,534	3,643	1,556	1,510	1,685	13,928
	15~64歳	23,563	13,009	6,895	7,454	6,853	57,774
	65歳以上	8,173	4,156	2,575	2,798	2,679	20,381
	合計	37,270	20,808	11,026	11,762	11,217	92,083
高齢化率 (%)	21.9	20.0	23.4	23.8	23.9	22.1	浜松市 24.5%

(資料：浜松市統計書、住民基本台帳(平成23年10月1日))

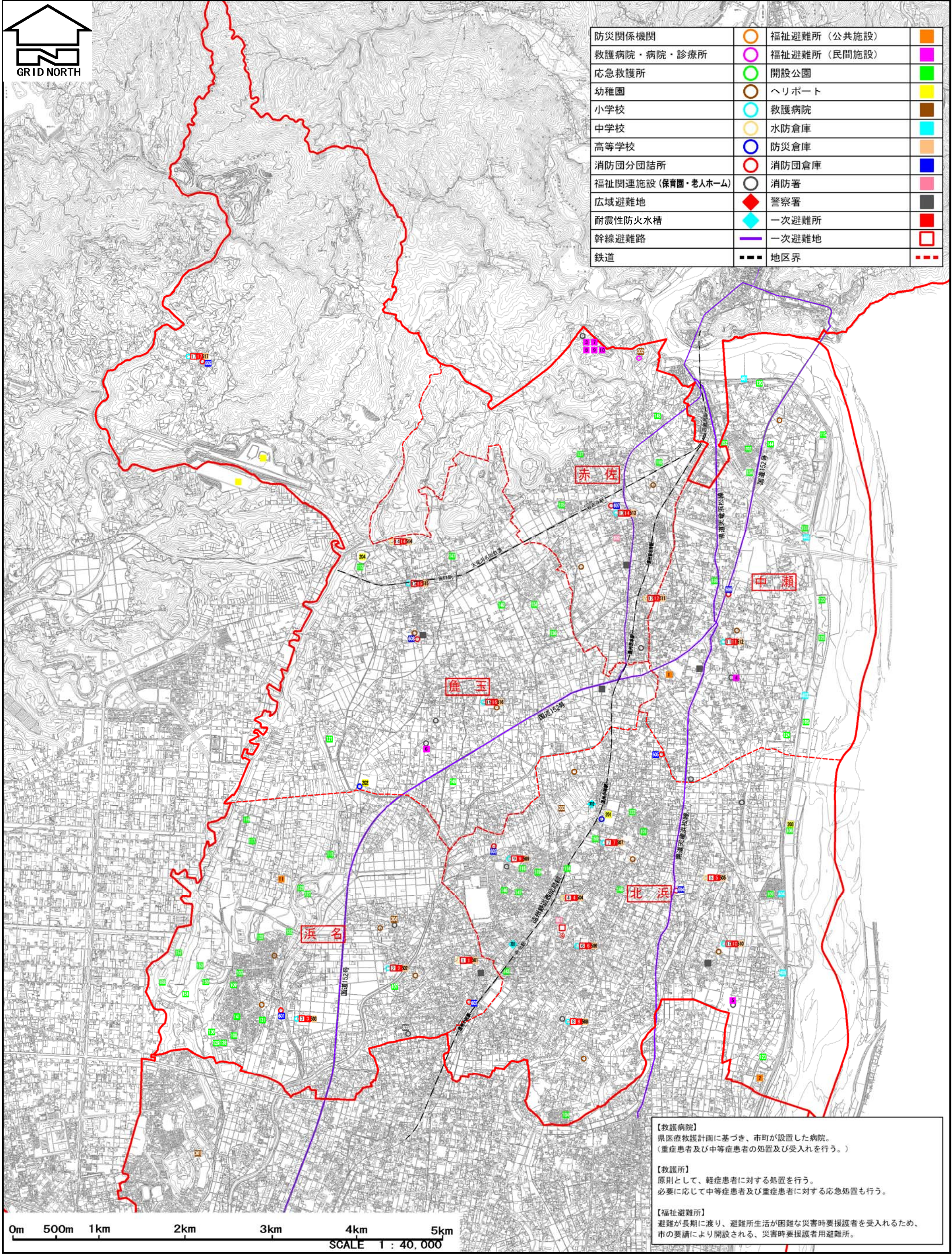


- ※一般的には高齢化率(総人口に占める65歳以上の人口の割合)によって以下のように分類される。
- ・高齢化社会 : 7~14%
 - ・高齢社会 : 14~21%
 - ・超高齢化社会 : 21%以上

浜北区における地区別の高齢化率

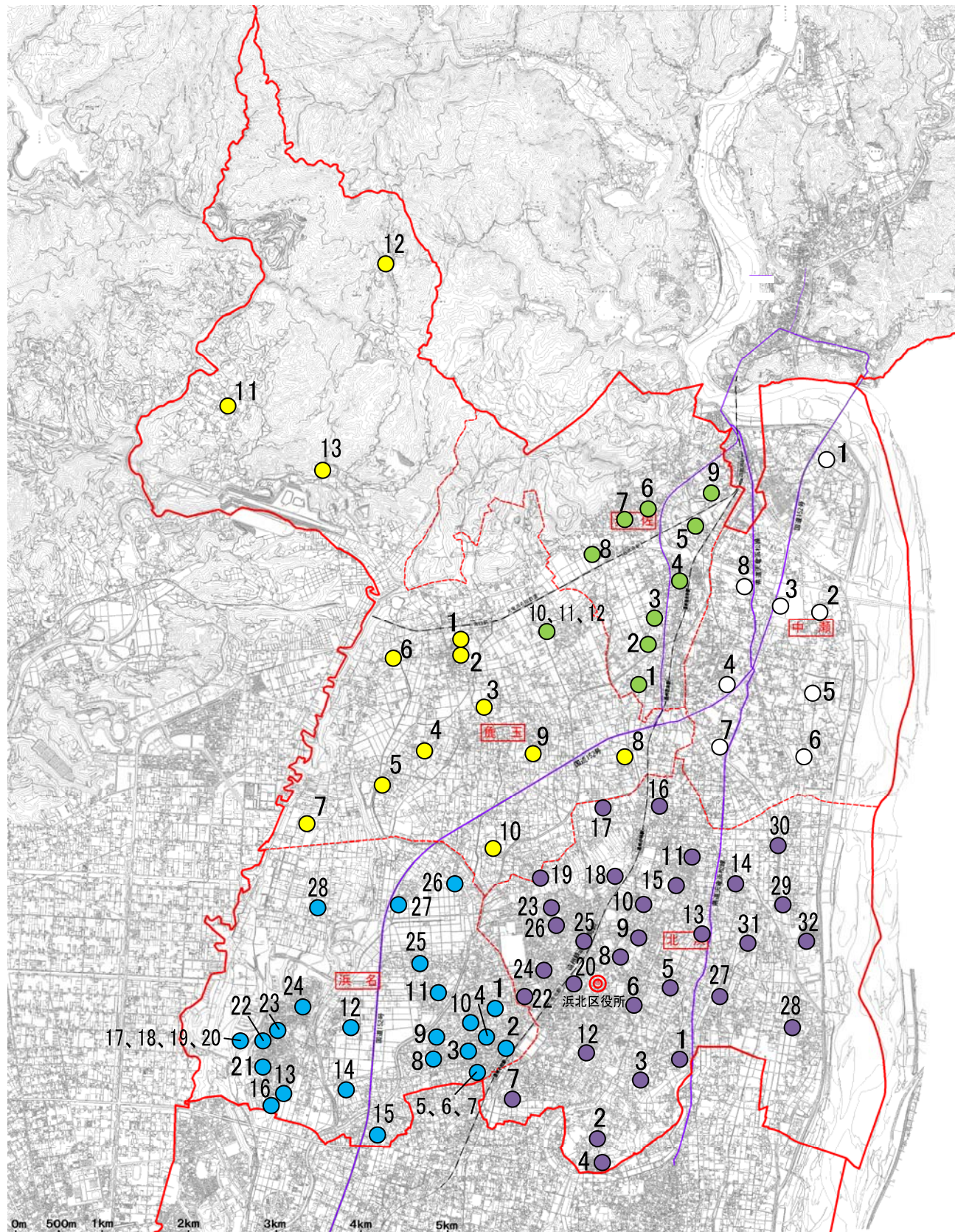
2. 浜北区の社会環境 (その2)

③ 災害に関する施設配置



④ 自主防災隊

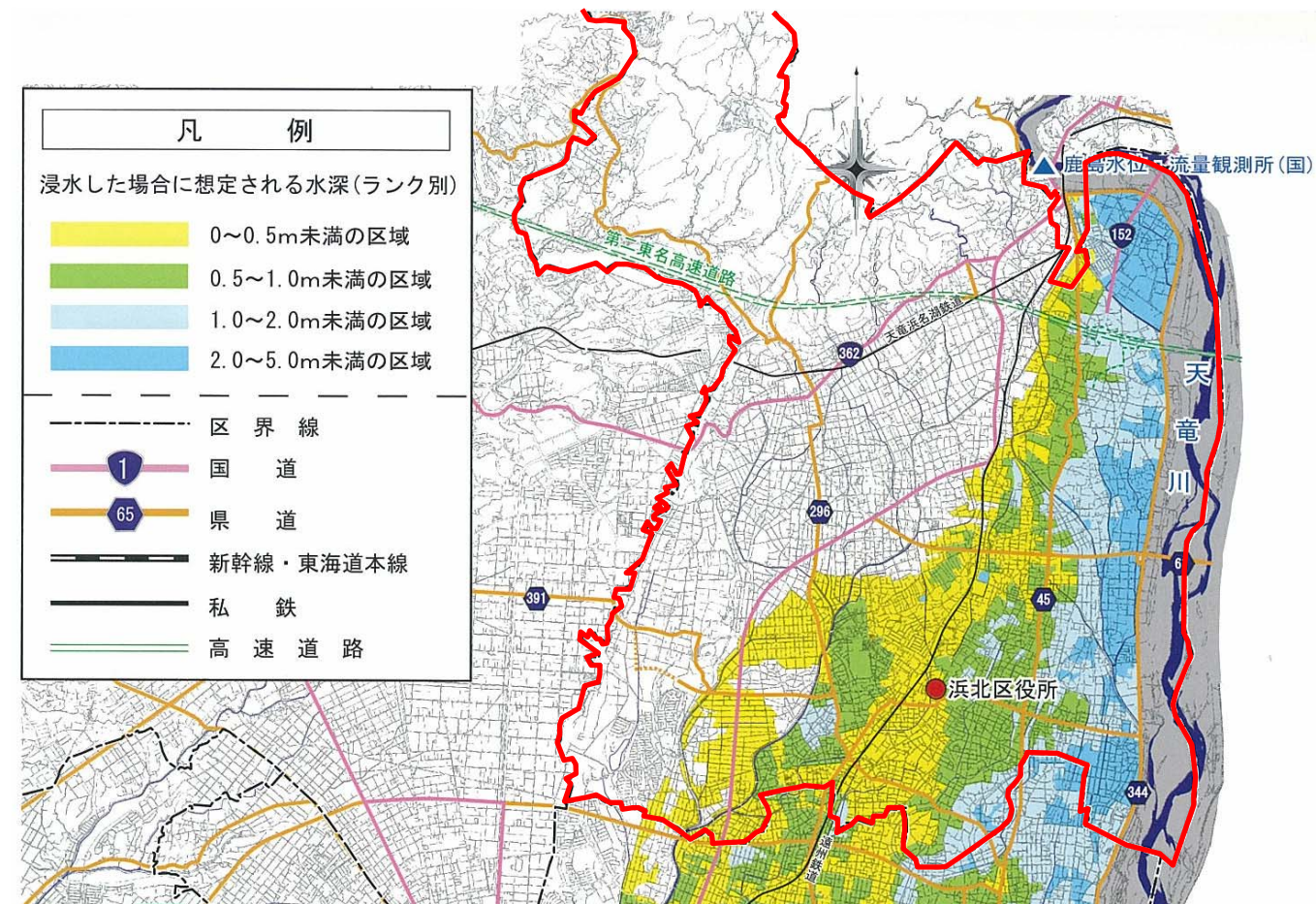
浜名	図面番号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
	自主防災隊名	小松八幡	東町	西町	栄町	南1丁目	南2丁目	南3丁目	尾島	沖	本町	西向
	世帯数	405	210	138	116	130	176	107	240	79	245	168
	図面番号	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22
	自主防災隊名	内野上	内野西	内野下	内野小島	内野雇用促進	染地台1丁目	染地台2丁目	染地台3丁目	染地台4丁目	内野台1丁目	内野台2丁目
	世帯数	188	189	137	183	30	364	254	383	151	300	430
	図面番号	23	24	25	26	27	28					
自主防災隊名	内野台3丁目	内野台4丁目	新田	法師軒	平口本村	姥ヶ谷						
世帯数	265	460	231	259	154	88						
北浜	図面番号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
	自主防災隊名	寺島東	寺島南	寺島北	若草団地	高畑	高畑雇用促進	中条	西美菌下	西美菌中	西美菌上	西美菌大上
	世帯数	184	327	339	150	576	76	777	581	442	442	318
	図面番号	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22
	自主防災隊名	横須賀	東美菌	油一色	美菌団地	本沢合	小林上	道本	小林下	沼第一	沼第二	貴布祢第1
	世帯数	1065	552	142	169	850	261	216	320	575	76	370
	図面番号	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	
自主防災隊名	貴布祢5区	貴布祢6区	貴布祢7区	貴布祢4区	善地	高菌	八幡	永島	上善地	八幡団地		
世帯数	276	64	272	792	365	250	63	250	134	183		
中瀬	図面番号	1	2	3	4	5	6	7	8			
	自主防災隊名	上島	中瀬2区	中瀬3区	中瀬西部	中瀬5区	中瀬6区	中瀬7区	中瀬8区			
	世帯数	535	129	396	708	334	183	457	366			
赤佐	図面番号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
	自主防災隊名	赤佐1区	赤佐2区	赤佐3区	赤佐4区	赤佐5区	赤佐6区	赤佐7区	赤佐8区	赤佐12区	尾野上	尾野中
	世帯数	360	264	285	405	253	330	239	365	89	200	322
	図面番号	12										
自主防災隊名	尾野下											
世帯数	235											
鹿玉	図面番号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
	自主防災隊名	大屋敷	町	有隣	野口	梶池	譲栄	辺田原	新原東原	新原本村	新原下善	大平
	世帯数	340	124	336	173	162	162	55	308	580	508	101
	図面番号	12	13									
自主防災隊名	堀谷	灰木										
世帯数	22	53										



⑤ハザードマップ

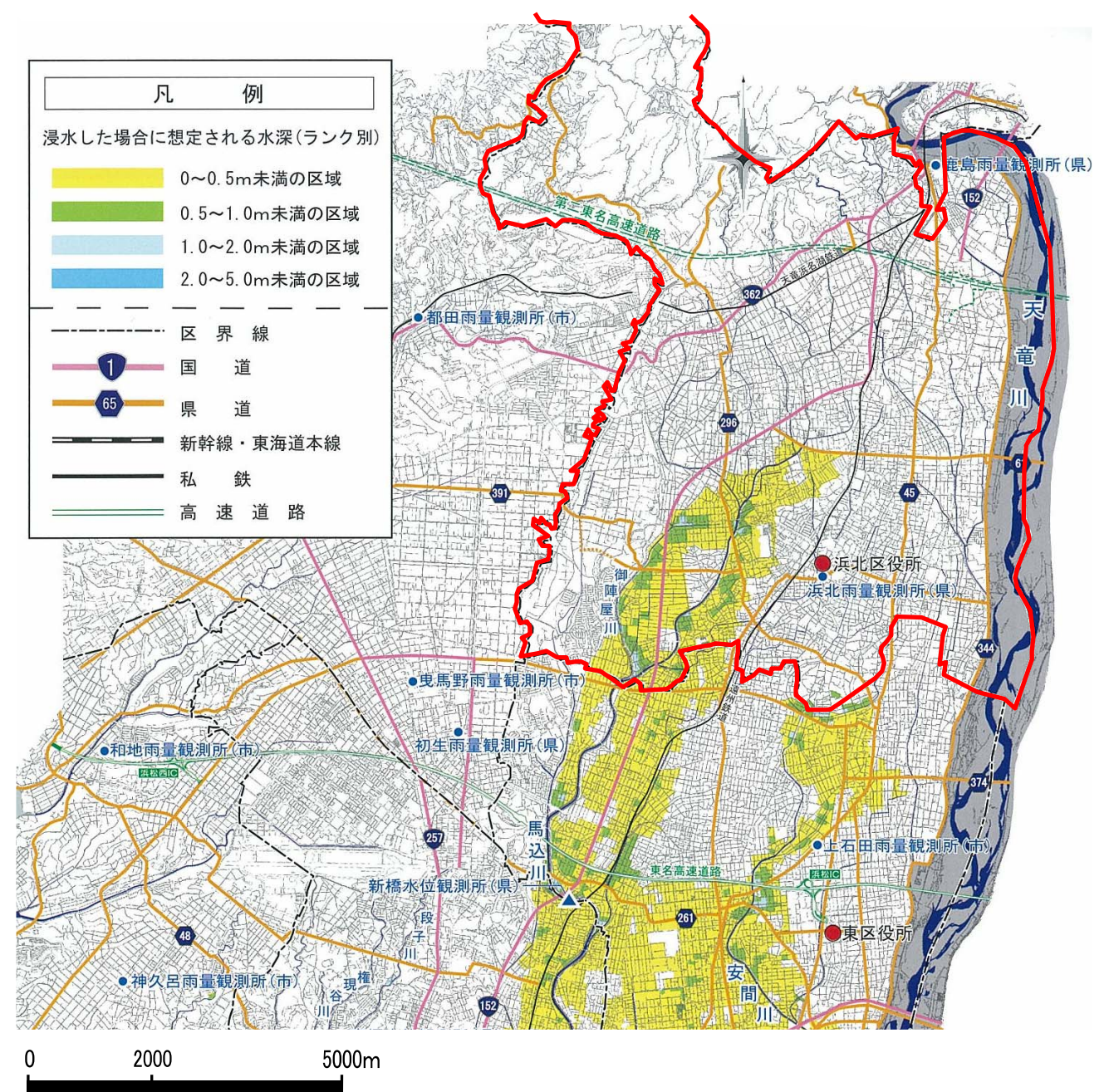
【天竜川の浸水想定区域】

- ・天竜川流域でおおよそ 150 年に 1 度程度の大雨（流域全体の 2 日間の総雨量が 318mm）による氾濫を想定した場合の浸水範囲と水深は、以下のようになっています。
- ・特に区の東部に位置する「浜名地区」「中瀬地区」で浸水位 2.0～5.0m 未満と想定されています。県道 45 号以西は、浸水深が 1.0m 未満と想定されています。



【安間川・馬込川・新川の浸水想定区域】

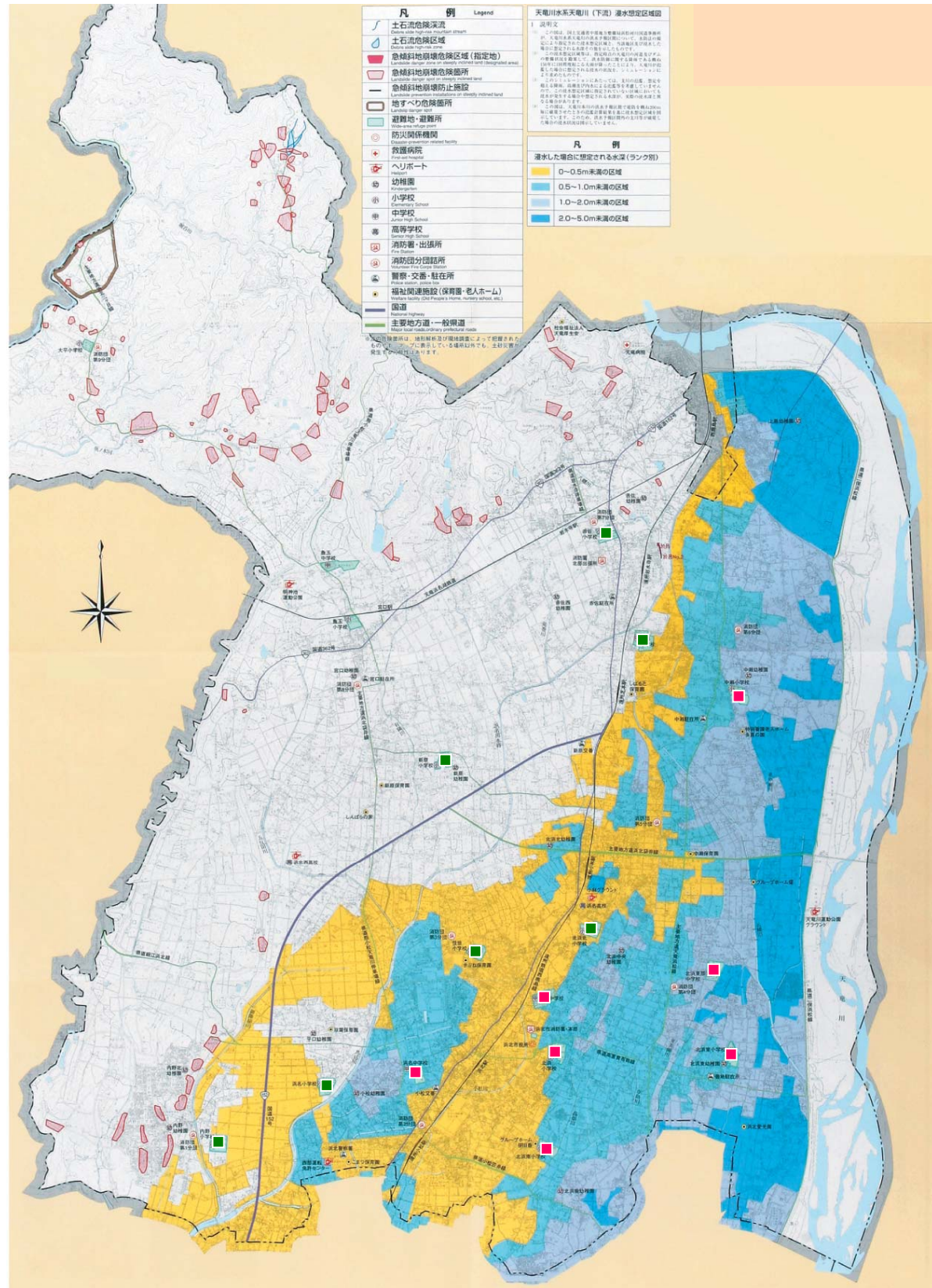
- ・安間川、馬込川、新川の3河川が大雨（安間川：63.1mm/h、馬込川：72.5mm/h、新川：65.8mm/h）による氾濫を想定した場合の浸水範囲と水深は、以下のようになっています。
- ・浜北区においては、馬込川と御陣屋川の周辺で浸水深 1.0m 未満と想定されています。



【浜北区ハザードマップ】

・天竜川が氾濫した場合の「避難所」は7箇所（6小学校、1中学校）が指定されています。また、緊急時に2階以上の避難所として利用できる「洪水時緊急避難施設」として7箇所（4小学校、3中学校）が指定されています。

【凡例】 ■：避難所 ■：洪水時緊急避難施設



■避難所一覧

	名称	所在地
浜北区	浜名小学校	小松1450
	内野小学校	内野1702
	北浜北小学校	西美蘭1588
	伎倍小学校	貴布祢2646
	浜北北部中学校	於呂2961
	赤佐小学校	於呂2790
	新原小学校	新原2331

・浸水しない場所、あるいは浸水しても浅い（水深0.5m未満）場所■にある小中学校等が「避難所」として指定されています。

■洪水時緊急避難施設

	名称	浸水時に利用できる階		
		2	3	4
浜北区	浜名中学校	2	3	
	北浜中学校	2	3	4
	北浜東部中学校	2	3	4
	北浜小学校	2	3	
	北浜南小学校	2	3	
	北浜東小学校	2		
	中瀬小学校	2	3	

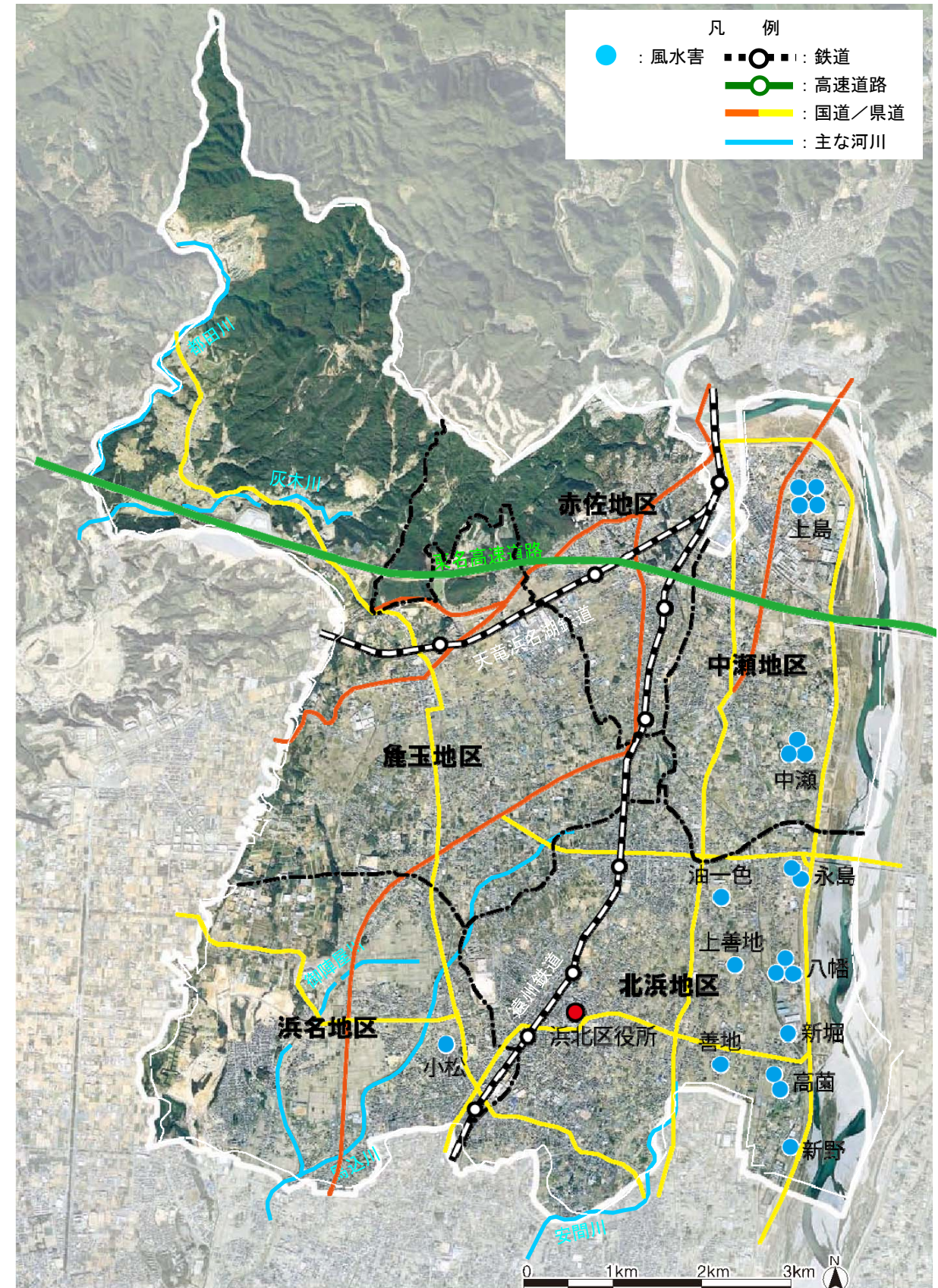
・天竜川の氾濫の恐れがある場合、0.5m以上の浸水が予想される小中学校等は避難所として使用できません。
 ・「洪水時緊急避難施設」は、天竜川が氾濫した時は浸水位が深い場所に立地しているため施設の低い階は使用できず、「避難が遅れた人が緊急的に利用する施設」として指定されています。

3. 浜北区における過去の災害履歴

- ・天竜川下流付近の西岸に位置しており、「暴れ天竜」と呼ばれた天竜川の氾濫の歴史とともに地域が形成されてきました。
- ・長年、天竜川洪水による被害が毎年のように発生してきましたが、河川整備に伴い被害の発生確率は低下してきました。近年では1974年（昭和49）の七夕豪雨により浸水被害が発生しています。

西暦	和暦	災害	被害概要	地震	風水害	津波・高潮	土砂災害
1636	寛永13	馬込川洪水	・彦助堤油一色(北浜地区)で決壊 ・下川で冠水		○		
宝暦年中		天竜市域洪水	・蠟燭島村亡所		○		
1827	文政10	天竜川満水	・八幡・新堀・高菌・新野・倉中瀬・白馬(北浜地区)の村々囲堤切れ込む		○		
1843	天保14	天竜川洪水	・善地村(北浜地区)で100間程堤防決壊		○		
		天竜川洪水	・中瀬村(中瀬地区)で破堤 ・永島村(北浜地区)へ水押入る		○		
1854	安政1	安政東海地震 (推定M=8.4、震度5~6)	・全壊7戸、半壊33戸 ・小松村(浜名地区)では300戸のうち100戸潰れ	○			
1860	万延1	天竜川洪水	・中瀬村・上島村・永島村・八幡村・中善地村付近(中瀬・北浜地区)で破堤により人家多数流出		○		
1861	文久1	大雨 天竜川洪水	・高菌村・八幡村・永島村地内(北浜地区)水位堤上端まで達す		○		
1869	明治2	天竜川洪水	・天竜川西岸、中瀬村萩原(中瀬地区)で95間破堤		○		
1903	明治36	天竜川洪水	・西岸中瀬村(中瀬地区)で破堤 ・流出5棟、全壊5棟、半壊15棟、浸水296棟		○		
		天竜川洪水	・西岸中瀬村(中瀬地区)破堤 ・床上浸水41棟、流失1棟、浸水80町歩		○		
1918	大正7	台風	・死者45人、道路・橋・堤防・漁船等に被害あり		○		
1926	大正15	暴風雨	・全壊1,400戸、半壊1,036戸		○		
1944	昭和19	東南海地震 (M=7.9、震度5)	・全壊1戸、半壊6戸	○			
1959	昭和34	豪雨	・浸水家屋床上70戸、床下920戸		○		
1974	昭和49	七夕豪雨	・浸水家屋床上635戸、床下2,291戸		○		

(資料: 静岡県史、浜北市史、静岡県地震防災センターホームページ)

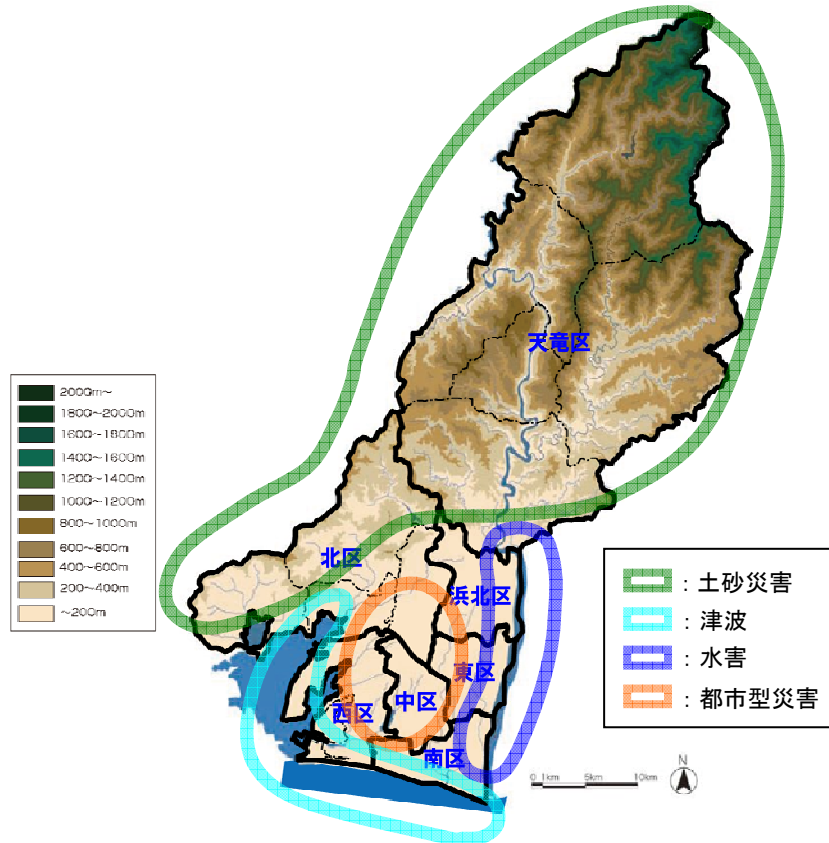


過去の主な災害発生箇所

■浜北区の災害特性

■浜松市の災害特性と区版避難行動計画策定の進め方

- ・浜松市の災害特性は、地形や市街地の形成過程などから、大きくは下図に示すように、「土砂災害」「津波」「水害」「都市型災害」の4つに分類されます。
- ・区版避難行動計画の策定にあたっては、主に区の特徴的な災害について議論しながら進めます。



各区の災害特性

(資料：浜松市都市計画マスタープラン)

【自然条件】

- ・梅雨期の降水量が多く、洪水被害の原因となっています。
- ・天竜川が形成した沖積平野上に位置し、平野上には広域的に旧河道が分布しています。

【災害の履歴】

- ・天竜川による氾濫が毎年のように続いていました。

【ハザードマップ】

- ・天竜川の氾濫を想定した浸水区域と大雨による急傾斜地崩壊危険箇所が定められています。

■各区の災害特性一覧

区	地震	水害	津波	土砂災害
中区	◎	○		○
東区	○	◎		
西区	○	○	◎	○
南区	○	○	◎	
北区	○	○	○	◎
浜北区	○	◎		○
天竜区	○	○		◎